

授業科目〔多文化共生入門(1年生前期／講義科目／卒業選択)〕

【到達目標】

- (1) 多文化共生の基本的な概念を理解し、社会や文化の多様性を理解することができる。
- (2) 諸外国の事例や異文化学習を通じて、異文化を尊重する基本的な態度や考え方を身につけることができる。
- (3) 多文化共生の現状や課題を踏まえ、自らの考えや意見を論理的に説明することができる。

学習の成果			評価基準				
評価項目			レベル 4 (極めて優秀)	レベル 3 (優秀)	レベル 2 (良好)	レベル 1 (努力が必要)	
知識・理解	1	多文化共生や国際協力に関する基礎的な知識を得る。	多文化共生や国際協力に関する基礎的な知識を身につけ、それに基づき問題点や課題を指摘し、解決への新たな展望を得ることができる。	多文化共生や国際協力に関する基礎的な知識を身につけ、それに基づき問題点や課題を指摘することができる。	多文化共生や国際協力に関する基礎的な知識を身につけることができる。	多文化共生や国際協力に関する基礎的な知識を身につけられていない。	
	2	世界の地域文化に関する基礎的な知識を得る。	世界の地域文化に関する基礎的な知識を身につけ、それに基づき問題点や課題を指摘し、解決への新たな展望を得ることができる。	世界の地域文化に関する基礎的な知識を身につけ、それに基づき問題点や課題を指摘することができる。	世界の地域文化に関する基礎的な知識を身につけることができる。	世界の地域文化に関する基礎的な知識を身につけられていない。	
能力・技能	3	多文化共生について、資料や事例を通して理解を深める。	多文化共生に関して、資料や事例を通じて理解を深め、それに基づき問題点や課題を指摘し、課題解決への新たな展望を得ることができる。	多文化共生に関して、資料や事例を通じて理解を深め、それに基づき問題点や課題を指摘することができる。	多文化共生に関して、資料や事例を通じて理解を深めることができる。	多文化共生に関して、資料や事例を通じて理解を深められていない。	
	4	多文化共生の実践に向けて、その方法を構想、立案し、自らの意見を論理的に説明する。	多文化共生の実践に向けて、その方法を具体的に、そして適切に構想したり、立案したりして、それらを論理的に説明することができる。	多文化共生の実践に向けて、その方法を具体的に構想したり、立案したりして、説明することができる。	多文化共生の実践に向けて、その方法を構想して説明することができる。	多文化共生の実践に向けて、その方法を構想して説明することができていない。	
態度	5	多文化共生の現状や課題を客観的に捉える。	文献やインターネット等の様々な情報媒体を利用し、複数の視点から多文化共生の現状や課題を客観的に捉えることができる。	文献やインターネット等の情報媒体を利用し、複数の視点から多文化共生の現状を捉えることができる。	文献やインターネット等の情報媒体を利用し、多文化共生の現状を捉えることができる。	文献やインターネット等の情報媒体を利用し、多文化共生の現状を捉えることができていない。	
	6	世界の地域文化や異文化学習を通して、異文化を尊重する基本的な態度や考え方を持つ。	世界の地域文化や異文化学習を通して、社会や文化の多様性を理解し、異文化を尊重する基本的な態度や考え方を持つことができる。	世界の地域文化や異文化学習を通して、社会や文化の多様性を理解し、異文化を尊重する基本的な態度を持つことができる。	世界の地域文化や異文化学習を通して、異文化を尊重する基本的な態度を持つことができる。	世界の地域文化や異文化学習を通して、異文化を尊重する基本的な態度を持つことができていない。	

全学共通科目の教育目標：

これからの時代や社会に対応するために必要な教養を身につけ、基礎的な知識・技術を学び、コミュニケーション力や基礎学力を向上させ専門教育に向けての基盤づくりと、将来の進路選択に必要な能力・態度を育てることを目的としている。

全学共通科目におけるグローバル関連科目における授業科目の目的・ねらい

- ・国際化社会において活躍できることを目指し、語学や他国の知識を修得し異文化間でのコミュニケーション力を培う。

(※『四国大学履修要綱』「全学共通教育の教育目標」から引用)